

## 富田林市文化財調査報告43

# 新家遺跡 I

編集 富田林市教育委員会  
発行 富田林市

調査地 富田林市新家一丁目  
調査面積 38.4 m<sup>2</sup>  
調査期間 2007年12月18日～  
2008年1月11日  
調査担当 中辻 亘

### はじめに

新家遺跡は、市域の中央、石川左岸の中位から上位段丘上にかけて位置している。遺跡の範囲内には、新家古墳、錦織神社境内遺跡が含まれ、また、遺跡の東に甲田遺跡、トヨノ浦遺跡、甲田南遺跡と接続している。

今回の調査は、消防分団の車庫建替えに伴うものであり、2007年12月18日から翌年1月11日まで、38.4 m<sup>2</sup>を対象として実施した。

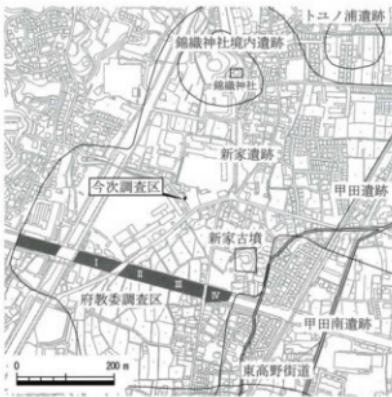
調査区は、新家遺跡のほぼ中央に位置し、北方約300mには室町時代に創建された錦織神社が、東に隣接して錦織神社のお旅所が鎮座する。境内では鎌倉時代の遺構も確認されており、この一帯が中世集落の中心地であったと考えられる。

これまでに新家遺跡で実施された発掘調査はあまり多くないが、1978年から82年にかけて実施された、都市計画道路大阪千早線（国道309号）の工事に伴う大阪府教育委員会の調査が知られている。この調査では、中位段丘上に位置するII区からIV区で、古代から中世に属する400基を超える土壙群が検出されたが、この大半は土壙墓であると考えられている（今村1980）。

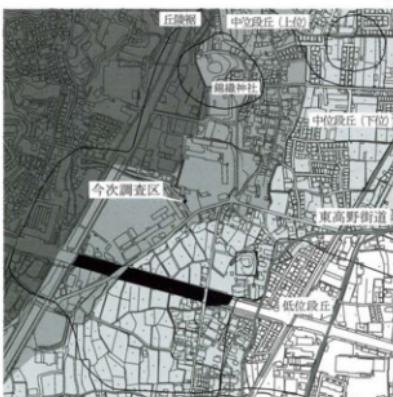
錦織神社は、『河内国錦部郡水都宮之次第』（内田次郎家文書）によると、正平18（1363）年の創建と伝えられている。また、昭和10年の本殿解体修理時に出土した瓦から、平安時代には何らかの施設が存在していたとも考えられている（文化財建造物保存技術協会2005）。

### 層序

上から順に、①盛土（10YR7/4にぶい黄橙色混礫弱粘質土）、②旧耕土（10YR7/1灰白色土）、③旧床土（10YR7/8黄橙色粘質土）、④10YR6/3にぶい黄橙色弱粘質土、⑤10YR6/2灰黃褐色粘質土、地山となる。④は、調査区北西部のみに認められる。



遺跡周辺図



周辺地形図



調査区全景（南から）



南端下層遺構検出状況（西から）

#### 遺構

##### SK01

調査区北西部で検出した不整形な土坑である。埋土は灰黄褐色粘質土で、遺物は瓦片が出土している。長軸で1.5m、深さ0.07mを測る。

##### SK02

調査区北西部、SK01の南で検出した不整形な土坑である。埋土はにぶい黄橙色粘質土である。遺物は出土していない。長軸で1m、短軸で0.8m、深さ0.05mを測る。

##### SK03

調査区北東隅で検出した不整形な土坑である。埋土は灰黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。遺構の南側約1m分を検出した。深さは0.04mを測る。

##### SK04

調査区南東部で検出した不整形な土坑である。埋土は灰黄褐色粘質土で、遺物は土師器片が出土している。長軸で0.8m、短軸で0.7m、深さ0.1mを測る。

##### SP01

調査区北西部、SK02の南で検出した不整形なピットである。埋土は灰黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。長軸で0.35m、短軸で0.03m、深さ0.1mを測る。

##### SP02

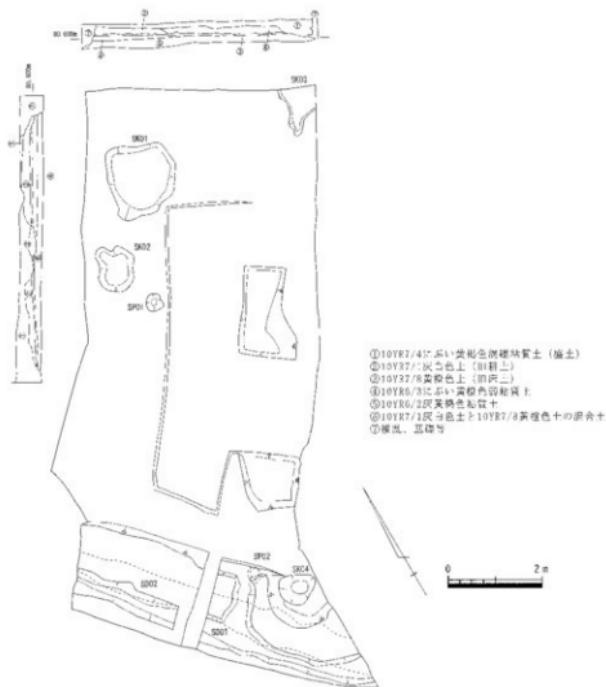
調査区南東部、SK04の西で検出した楕円形のピットである。埋土は外周部は暗灰色土、内側は灰白色土である。遺物は出土していない。長軸で0.35m、深さ0.07mを測る。

##### SD01

調査区南端部で検出した東西方向の溝である。ほぼ調査区南に接する市道と並行である。埋土は灰白色粘質土で、断面は浅いU字形を呈している。遺物は土師器片、陶磁器片が出土している。長さ6.5m分を検出した。幅約0.4m、深さ0.09mを測る。西端から約4.5m地点でほぼ直角に北に分岐する。この付近では、円礫が多く認められた。

##### SD02

調査区南端部でSD01に接して検出した東西方向の溝である。SD01とは新旧関係が見られ、SD02の方が古い。埋土は灰白色粘質土に黄橙色粘質土が混じる堆積で、断面はU字形を呈している。遺物は土師器片、須恵器片、瓦片が出土し



平面・断面図

ている。長さ 6.0m 分を検出した。幅約 0.55m、深さ 0.25m を測る。

### まとめ

今回の調査区は比較的小規模なものであったが、古代から近世の遺物が出上しており、同時期の遺構が存在することが明らかになった。なかでも、遺構中に瓦が含まれることから、調査地周辺に瓦を葺いた建物が存在したことを伺わせる。

また、調査区の南端で検出した 2 条の東西方向に隣接して平行する溝は、道路側溝の可能性が高いと考えられる。古い資料によると里道の存在が確認でき、調査区東に隣接して、室町時代に創建された錦織神社の神輿の行事を行いうお旅所があることからも推定されるところである。SD01 は、埋土が旧耕土と類似することや、調査区内の旧水田堆積からみて関連する時期の可能性が高い。SD02 については SD01 よりも古く、調査区西側の防火水槽敷設時の調査でも延長部が確認されている。

富田林市内の旧街道などの幹線道路沿いでは、近年の発掘調査で古代から中世にかけての集落跡が確認されており、今回の発掘調査においても同じような様相が伺える。

### 【参考文献】

今村道雄 (1980)『新家造跡発掘調査概要・II』大阪府教育委員会

文化財建造物保存技術協会(2005)『重要文化財錦織神社本殿他二棟保存修理工事報告書』錦織神社

## 報告書抄録

ふりがな	しんけいせき いち							
書名	新家遺跡 I							
副書名								
卷次								
シリーズ名	富田林市文化財調査報告							
シリーズ番号	43							
編著者名	中辻 宜							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 Tel.0721-25-1000 (代)							
発行年月日	2009(平成21)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
しんけいせき 新家遺跡	とんだばやしし 富田林市 しんけいっちょうめ 新家一丁目	市町村 27214	遺跡番号 39	34° 29' 34"	135° 35' 15"	2007.12.18 ~ 2008.1.11	38.4	消防分団車庫 建設に伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
新家遺跡	集落跡	古代～近世	溝、ピット、土坑	土師器、須恵器、瓦				